

書窓

Shoso

No.381

2017.1

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561
兵庫県揖保郡太子町鶴
1310 番地 7

Tel (079)277-1580
Fax(079)277-5684

子どもの本だな 39

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ねむりひめ グリム童話

フェリクス・ホフマン エ
せた ていじ やく (福音館書店)

むかし、子どもがほしいと願っていた王様とお妃様に女の子が生まれました。お祝いの宴に招かれた12人の占い女たちは、姫に良い心、美しさ…とそれぞれ贈り物を授けました。ところが招かれなかった13人目の女が現れ「姫は15になったら錘に刺されて死ぬ」と呪いをかけます。呪いは軽くされましたが、15歳になった時、姫は錘で指を刺し深い眠りに落ちました。城のすべてのものが眠り、やがて茨に覆われました。

深い緑の色調と繊細な線の絵は、劇的で格調高い雰囲気を表し、子どもたちはグリムの昔話の生命力を感じながら最後には大きな満足を味わいます。読んでもらえば4・5歳から楽しめます。(西村)

ニルスのふしぎな旅 上・下

セルマ・ラーゲルレーヴ 作 菱木 晃子 訳
ベッティール・リーベック 画 (福音館書店)

スウェーデン南端にある丘に、ニルスといういたずら好きの男の子が住んでいました。ある日、捕まえた妖精トムテを怒らせ小人にされたニルスは、家の白ガチョウ、モルテンの背に乗り、アッカ隊長率いるガンの群れと共に北に向けて旅立ちました。旅の途中、キツネに襲われたガンの仲間を助け、リスの親子やモルテンを人間から救い、ニルスは次第に動物たちから信頼を得ていきました。

城を占領したドブネズミを不思議な角笛で追い出したり、アッカに育てられたワシのゴルゴを檻から助け出したり、時にはカラスやクマや人間に捕まったり…。ニルスは仲間と助け合いながら様々な困難を乗り越えて成長していきました。

スウェーデンの小学校の地理の教科書として書かれた物語。各地の地理や歴史、伝説や北欧神話などがうまく溶け込み、ニルスと一緒に旅しながらスウェーデンをより深く知ることができます。12歳から大人まで十分に楽しめます。(池之上)

1月	2月	1・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
12日	9日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
19日	16日		岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
26日	23日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

13歳からの読書会

『アンナプルナ登頂』を読んで
(エルゾーグ著 岩波少年文庫)

ヒマラヤ山脈の未踏峰アンナプルナに挑むフランス登山隊。勇気と友情、山への思いあふれる冒険の記録。

日時:平成29年2月5日(日)
10:30~12:00

会場:図書館 読書会室
対象:中学生以上大人まで
準備:当日までに本を読んでください。*申込みが必要です。

『 旅をする木 』 星野 道夫 著

文藝春秋 253頁 1995年8月刊 1,500円 (請求記号) 295

アラスカを愛し、その雄大な自然とそこに生きる人々を、生き生きとした写真と詩のような文章で伝えてくれた星野道夫。彼が、テレビの取材旅行中にヒグマの事故で急逝してから20年が経った。その節目にあたる昨年8月から全国巡回写真展が開催され、関係図書も多く出版されている。元担当編集者が、彼の著作を何度も読み返しながら生涯をたどった『星野道夫 風の行方を追って』(湯川豊著(新潮社)、友人にあてた手紙や取材ノートなど、多くの写真を掲載した別冊太陽「星野道夫」、児童向けの伝記『星野道夫 アラスカのいのちを撮りつづけて』(国松俊英著(PHP研究所)など。没後20年経った今でも、彼の写真やエッセイ、人柄や生き方に惹かれ続けている人々が想像以上に多いことがわかる。

亡くなるちょうど1年前に刊行されたエッセイ集『旅をする木』。どうしてもアラスカに向かわざるを得なかった「突き動かされるような熱い想い」を回想する「新しい旅」から始まり、穏やかな語り口で、深く心に染み入る言葉がちりばめられた文章が並ぶ。高山に囲まれた氷河の上でオーロラを待つ。「暗黒の空を生き物のように舞う冷たい炎」があらわれる。感受性の鋭い子ども頃にこんな風景を見せたいと、小学生から高校生までの11人の子どもを連れて行った体験を綴る「ルース氷河」。アラスカの海の上、友人の目の前でクジラが飛び上がったエピソードを語り「ぼくたちが毎日を生きている同じ瞬間、もうひとつの時間が、確実に、ゆったりと流れている。日々の暮らしの中で、心の片隅にそのことを意識できるかどうか、それは、天と地の差ほど大きい。」と結ぶ「もうひとつの時間」。

北への憧れ、しんとした静けさ、人間への愛おしさ、生命は太古の昔からつながっているという感覚……。ひとつのエッセイをゆつくりと味わったあと、あらゆる生命へのまなざしがやさしくなっていることに気づく。彼の人生の指針ともいえる愛読書『極北の動物誌』(新潮社)、交友の深かったリン・スクーラー著『ブルーベア』(集英社)など、読みたい本も広がった。(池田)

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

カレンダーの×印は休館日。
開館は10時～18時。
金曜日は20時まで開館。

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

やさしい考古学講座 「縄文人の生活」

「東南遺跡」をはじめ町内外の遺跡から、豊かな自然とともに集団生活をした縄文人の生活に迫ります。
講師：深井明比古さん
(兵庫県立考古博物館)
日時：3月25日(土)
13:30～15:30
会場：あすかホール
ミニシアター
対象：小学生以上大人まで
(60名)
※申込みが必要です。

地下水

初春のお喜びを申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。昨年は、砂鉄と天文のやさしい科学講座、ブックスタート、絵本の交換会、13歳からの読書会など、乳幼児から大人まで、本の楽しみを伝える新しい催しに取り組んだ。そのしめくりの12月、横野菜々さんに、スウェーデンの自然、暮らし、児童文学について講演していただいた。ラーゲルレーヴ、ベスコフに続き、リンドグレンの話になると、ピッピ、エーミル、やかまし村の子どもたちの活躍が次々に浮かび、懐かしくてならなかった。燃えさかる摩天楼から幼い兄弟を助け出した長くつ下のピッピ、吹雪について重病の作男を乗せた橇を走らせるエーミル、畑仕事に赤ん坊のお守り、熱で寝込んだ学校の先生の看病に、サクランボ株式会社まで作ったやかまし村の子どもたち。どの子ども元気がよくていたずら好き。大人たちは眉をひそめることもあるけれど、困っている人がいると考えるより先に体が動きだしてしまう、そんな彼らを応援せずにはいられない。存分に遊んだピッピのように、心ゆくまで講師の声に耳を澄ましお話を楽しんだ。

講演会の翌日は休館日。図書館の人たちと香寺の日本玩具博物館で開催のクリスマス展へ。世界各地のクリスマスツリーや馬槽に続き、スウェーデンのクリスマス展示を見た私たちの喜びようは、胸をおどらせながらクリスマスを準備するやかまし村の子どもたちにも負けていなかった。今年も、本の喜びをたくさんの方と分かち合いたい。(片木)

